

## 執筆者紹介

渡邊友里恵	本学欧米言語文化専攻前期課程修了（2013年3月）
山本 佑樹	本学欧米言語文化専攻前期課程修了（2013年3月）
青木 萌	本学中国言語文化専攻博士後期課程3年
横関 里美	本学中国言語文化専攻博士後期課程3年
横山 昌子	本学中国言語文化専攻博士後期課程2年
安信 美紀	本学中国言語文化専攻博士前期課程修了（2013年3月）
楊 玲	本学中国言語文化専攻交換留学生

## 編集後記

昨年からだっか、あるいは一昨年からだっか忘れたが、1つの授業科目において1セメスターの間に行う授業回数が15回となった。以前は13回だった。13回だったとき、特に後期では、時間の経過が早く感じられ、9月下旬から授業を始め、気が付くと12月になっていた。今年は、そのような感覚が少し薄れた。最近、私が担当しているフランス語の授業に関連して、冠詞と固有名詞の間でリエゾンはするのか、あるいは、フランスにも交通機関で使うことのできるICカードのようなものがあるのか、などということを少し調べたりしていたら、また、年末が来た。何かの本で読んだのだが、人は、感動することが少なくなると、時間がたつのが早く感じられるという。

さて、今回の『神奈川大学大学院 言語と文化論集』も第21号となります。投稿して下さった皆様、ありがとうございました。次回もよろしく願いたします。

（編集委員 西野清治）

## 投稿規定

1. 投稿は本大学院に在籍する者か、本学教員に限る。ただし、指導教授の推薦により、博士前期・後期を修了した後の2年間は投稿できるものとする。
2. 論文は原則として、専攻分野に関わる領域を対象としたものとする。
3. 完全原稿を提出すること。

- ・ 長さは、日本語・中国語の場合はA4版（横33字、縦29行）で20枚（2万字程度）、その他の言語の場合はA4版（横68字、縦25行）で30枚程度とする。
- ・ 原稿には英文の標題をつけ、ローマ字表記の名前を明示する。  
（例）

Verbal Irony and Echoic Use                      KANAGAWA Tarou

The phonological system of Hum mong ja hoe KANAGAWA Hanako

- ・ 校正は再校まで執筆者が行うこととし、その際、コンピューター処理に関わるもの以外に加筆・削除は認めない。
- ・ 原稿を提出する際は、次の3点を提出すること。  
ア) 完全原稿を出力したもの 1部  
イ) 原稿表紙（名前・所属・連絡先・論文標題を記した一覧表）  
1部  
ウ) 外部メモリ（USB等）にア)とイ)を保存したもの（後ほど返却）

4. 原稿提出締め切り：11月30日（厳守）

（執筆者は7月31日までに編集委員に提出論文の概要と予定字数を予告すること。）

(2011.12.14 研究科委員会承認)

神奈川大学大学院  
言語と文化論集 第21号

2015年2月 印刷  
2015年2月 発行

編集発行 神奈川大学大学院  
外国語学研究所  
(横浜市神奈川区六角橋 3-27-1)

製 作 共立速記印刷株式会社